

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号

42

| | | | |
|----------------|---|---|--|
| 1 学校教育目標 | 教育活動のあらゆる場をとおして、知・徳・体・技の調和のとれた地域社会から期待される人間性豊かな工業技術者を育成する。 (1) 基礎学力と専門の知識・技能の確実な定着 (2) 基本的生活習慣の習得と豊かで逞しい心の育成 (3) 産業界の信頼に応える学力の保証と勤労観の育成 (4) 豊かな人間性や社会性の育成 | | |
| 2 スクール・ポリシー | 『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ①工業技術者としての自覚を高め、基礎学力と専門的知識・技能の定着に基づいた職業観・勤労観を持った生徒 ②地域社会から信頼され、新たな価値を生み出し、未来を拓く創造性あふれる生徒 ③多様な人格を尊重し、豊かな心と健やかな身体を持った生徒 | 『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ①就職や進学に対応した柔軟な選択科目や習熟度に合わせた少人数授業を展開し、タブレット端末などを活用する生徒一人ひとりに寄り添う支援の推進 ②専門的な知識や技術の習得、様々な資格取得のサポートをはじめ、インターンシップ・企業見学を通して、充実したキャリア教育・進路支援の実施 ③地域社会と連携した学校行事、活発な部活動を通して、豊かな人間性や社会性の育成 | 『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ①ものづくりに興味・関心を持ち、身につけた知識や技術を産業界で活かしたい生徒 ②高校生活に明確な目標を持ち、学習をはじめ資格取得、部活動など学校生活に意欲的に取り組み、自ら成長しようとする生徒 ③規範意識が高く、規則正しい学校生活ができる生徒 |
| 3 現状の分析 | ○ICT機器を積極的に活用し、「わかりやすい授業」や「課題をもって主体的に取り組む授業」が多く実施されている。 ○校内の新型コロナウイルス感染症対策に多くの生徒が意識して取り組み、学校祭や修学旅行などの学校行事も問題なく実施することができた。 ○社会人になる上で必要な良識やマナーについて、多くの生徒たちが自覚を持って学校生活を送っている。 ○工業科における各種大会、コンテスト、資格試験取得に向けて意欲的に取り組む生徒の姿が見られた。 ○心のアンケートやいじめアンケートについては、その結果を踏まえ個々の生徒に対してきめ細かな支援を実施できた。 ▲欠席や遅刻数が増加している。コロナ禍の影響も考えられるが、生活面において個々の抱えている問題について丁寧に対応していく必要がある。 ▲学習目標を明確にした上で、思考力の向上を重視した主体的な学習を推進していく必要がある。 | | |
| 4 学校の抱える課題 | ・多様化する生徒に対し、個別に合理的な指導方法を作成し、かつ全職員が共通理解を図り連携して指導を行っていく必要がある。 ・学校生活において職業教育上求められる指導を行っていく一方で、いかにして生徒の自立心、自律心を育てていくべきか。 ・コロナ禍により様々な教育活動が制限され、生徒間のコミュニケーションが減少する中で、よりよい人間関係をどう構築し活力ある学校づくりをしていくか。 ・生徒が主体的、意欲的に学習に取り組むための授業計画の作成及び研修等を通じた教員の授業力向上。 | | |
| 5 今年度の具体的な重点目標 | ◇ICT機器を積極的に活用し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力および自ら学ぶ意欲や態度を育成する。 ◇教育活動のあらゆる機会をとらえて生徒一人一人を正しく理解し、情報共有と共通理解のもと積極的な生徒支援を推進する。 ◇将来の社会的自立に向けて生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進し、特にインターンシップなどの就業に関わる体験的な学習や、外部の教育力を活用した教育活動を通して、望ましい勤労観や職業観を形成する。 | | |

| 年 度 目 標 | | | 年 度 末 (途中) 評 価 | | | |
|-----------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|------------------|---|------------------|
| 6 評 価 項 目 領域・分野 | 7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策 | 8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標 | 9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等 | 10 評価 A・B・C・D | 11 成果と課題 | 12 総合 評価 |
| 教育課程 学習指導 | ①基礎基本の徹底した定着 | ①基礎力診断テストの実施 | ①基礎力診断テストの分析 | A | ○基礎学力向上のための朝 学習の実施 ▲タブレット活用ガイダンス の実施 | A B C D |
| | ②授業改善に向けた研修の充実 | ②ICTを活用した授業の充実 | ②アンケートと研修の実施 | A | | |
| | ③ICT機器の活用 | ③適切なタブレットの利用 | ③タブレットの利用状況 | B | | |
| 進路指導 | ①進路ガイダンス機能の充実 | ①3年生の進路実現達成 | ①外部講師の協力を得て3回以上実施 | A | ○進路目標達成に向けた3 年間を見通したキャリア教育 の充実 ▲進路希望調査 | C D |
| | ②主体的な進路選択意識の醸成 | ②就職・進学活動の積極性 | ②進路希望調査の実施 | B | | |
| | ③キャリア教育の推進 | ③キャリアパスポートの充実 | ③ポートフォリオの実施と整理・保管 | B | | |
| 生徒支援 職業教育と心の 育成 | ①基本的生活習慣の構築 | ①多遅刻生徒への指導・改善 | ①個別指導の強化 | A | ○校則の見直し等において 自立力を高める指導 ○生徒の個別相談の機会を 増加 ▲遅刻者数の改善 | |
| | ②教育相談の充実 | ②外部専門家との連携 | ②カウンセラーの効果的な活用 | B | | |
| | ③自他の生命の尊重 | ③いじめ未然防止と早期発見 | ③校内いじめ防止対策体制を強化 | B | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月3日

- ・学習指導についてはICT機器を積極的に活用し、工業高校の特色ある教育活動が実践されている。
- ・生徒の自主・自律的な行動を意識して、基本的生活習慣の確立、校則の見直しを図るなど、明確な目標を持って生徒支援がされている。
- ・キャリア教育においては、結果として地元をはじめ多くの企業からの求人があり、その責務を果たしている。
- ・インターンシップなど地元企業との連携が充実しており、生徒の進路意識の向上につながっている。

13 来年度に向けての改善方策案

- ・授業力向上のためのICT機器を活用した教員研修の充実
- ・地域や地元企業との連携による教育活動と進路支援の充実
- ・web会議システム等を利用した新しいキャリア教育の計画と実施
- ・遅刻や欠席数については、統計データや聞き取りにより原因を分析し改善に向けた取組を実施
- ・外部機関との連携による多様な生徒への対応と校内の教育支援体制の強化
- ・学校運営協議会等との連携による学校運営の実施